

第686回番組審議会報告

2024年3月5日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長（書面）、川瀬慈委員、木戸哲委員
小島幸保委員、津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、
田淵総合編成局長、柴田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

2023年度最終の審議会となるため、個別の番組の審議ではなく、
「MBSの番組・放送全般」について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 『よんちゃんTV』で卵の値段が高いと言われていた時期に、立岩さんと浅尾さんが養鶏家さんに敬意を示すためにこの値段を受け入れるべきじゃないかとコメントしたことにごく感心した。
- * 『よんちゃんTV』「カツめし」のコーナーの神戸東部市場の食堂のドキュメントはすごく面白かった。なかやまきんに君のナレーションも含めてすごくいいと思う。
- * 『よんちゃんTV』の火曜日が文化人や、学者、元記者など専門的な人が出ていないから何かもの足りない気がする。
- * 情報系のどの番組でもひたすら大谷翔平さんを伝えているが、なんだか日本人にしるテレビにしる自信がないためにこの人にすがりついている印象を受ける。
- * 大谷選手の話が多すぎて、相対的に政倫審などを伝える時間が短くなる。大事なニュースをオールドメディアがしっかり取材してオンエアすることが世間から忘れられることを防ぐのだということ意識してほしい。

- * 『あれみた?』の「公園をつくろう」は、公園の運営にここまでいろんな人たちが関わっていることがわかってすごく面白かった。
- * 『映像』の「たゆたえども沈まず～妻を介護する夫の日々～」は周りに支えられながら、最後の日々を何としても前向きに生きていこうという姿に感動した。世の中の目立たないところでこういう人が生きているということがよくわかって、とてもいい番組だと思った。
- * 『映像』の「小児性犯罪～当事者たちの証言～」は、丁寧に寄り添う感じで取材していて、加害者についてもなんとかして人生を立て直したいとしている姿をきっちりと追いかけて撮影しているのがすごく印象的だった。
- * 『映像』の「小児性犯罪」で加害者本人が実名を出して登場したこと に驚いた。実名報道の原則は理解した上で大丈夫だろうかと気になった。どういうやり取りがあって実名になったのか説明があった方がよかったのでは。
- * 『映像』の「記者たち～多数になびく社会のなかで～」の神奈川新聞の石橋学記者が相模原市長の会見が打ち切られた後、30秒ずっと無言の表情を映していたラストシーンがすごく印象に残った。多くのことがそこに含まれていると思った。
- * 『住人十色』は、土曜の夕方に心が安らぐ時間となっている。
- * 『住人十色』の2拠点生活の回がとても印象に残った。自分はやらないけれども何かすごくわくわく感を感じた。
- * 『1万人の第九』はコロナ禍が落ち着いて、久しぶりに会場で一つになったイベントとテレビ番組だった。このような歴史あるイベントとそれを残す番組作りは大きなメディアでないとできないことだとすごく感銘を受けた。
- * 『KICK OFF! KANSAI』は、関西のJ1の4チームの選手たちが集まって、どのチームのユニフォームがカッコいいかとお互いにしゃべったり、ライバルチームに移籍した気になる選手を言い合ったり、チームの垣根を越えた番組作りをしていて、関西全体で盛り上げていこうとする感じがとても出ている。J3も放送しているのでこの先アーカイブとしても貴重な番組になると思う。

- * 一昨年以来、旧統一協会やジャニーズ問題などさまざまな問題がクローズアップされている中で、今まで声を上げられなかった人たちがかなり可視化されて、きちんと向き合うべき時代になってきた。社内研修などで表現や取材の方法について学ぶ機会を増やしてはどうか。

- * ドラマを見る時にリアルタイム視聴と配信サービスを併用しているが、従来の視聴率の概念から録画による視聴や多くの配信プラットフォームでの視聴と多様化がどんどん進んでいる中で、テレビ局内でのコンテンツの評価方法について重視されている指標などを知りたい。

以 上